

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

Tel 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

急ぐ必要はない、あえて遅らせよう。

先月の巻頭言で「早い信仰と遅い信仰」というタイトルで「かしもの・かりものの理」というお道の教えの土台について触れた。

神様、またその教えを信じるか否かではなく、それを厳然たる事実として「知るといふ境地」を目指していきたいという内容だ。未読の方は、まずはこちらのコラムをこー読いたいただきたい。

さて今回はその続編として、どのようにすれば上記の境地に近づくことができるのかについて、考えを深めてみたい。



◆ シンプルで強い言葉はいらない

いつも私が文章を書いたり、お話をするとき意識していることがある。それはなるべくシンプルに短く、なにより分かりやすく表現するということだ。

なぜならば今の時代、あまりの情報過多ゆえに、そうでもない途中でスキップされてしまうからだ。

例えばSNS上では、なるべく受けが良いように、短く強い言葉でまとめられたショート動画が流行り、映画やドラマは倍速で観るなど、「コスパ」や「タイプ」といった風潮が広がっている。

さらにAIの台頭も相まって、たとえ門外漢の分野であろうが、本を端から端で読まずとも、生成AIに要約してもらえば、ある程度は事が足りる。

実際かくいう私も、昔は図書館が好きだったのだが、ここ1、2年はほとんど足が遠のいてる。むろん、悪いこと

ばかりではなく、知らず知らずのうちに誰しもその恩恵を受けているはずだ。そして、おそらくこの流れはさらに進み、社会はますます物事を単純化して理解しようとする傾向に向かうだろう。

今回の巻頭言もほぼ無意識のうちに、「かしもの・かりものの理を心に治めるポイント」を3つにまとめて：といった感じで、実際に書き進めようとしていた。

いや、本当にこれでいいのか。とたんに執筆が止まった。

この世界の真理を掘り下げていこうというのに、私がおこがましく単純化してしまつてなるものか。

必要以上に「シンプルに、強く、分かりやすく」要約してしまうことで、反対に根っこのところから遠ざかつてしまつていく気すらしてきた。自分は「分かっているつもり」になつていただけかもしれない。

◆ 一つ受け取り、ゆっくり噛みしめる

ここである話を紹介したい。

東本大教会の初代会長である中川よし先生の逸話である。当時、上級教会の高安大教会の役員に、佃巳之吉というおさとして有名な先生がいた。その佃先生に話を伺いに行った時の話だ。

「先生一言で結構ですから、神様のお話を聞かせて下さいませ」とよしが言うと、佃は、

「よう見えた。それでは一つお話しさしてもらいましょう。あのを、およしさん、この道は朝起き、正直、働きというてなあ……」

佃は話をはじめた。よしは、

「先生、ありがとうございます。もうこれで結構でございます。またお



願います」

と帰り支度を始め、立ちかけた。佃はおどろき、

「な、な、中川、は、は、話はこちらからやが。ひ、人に話をさしかけて、どこへ行くのや」

とあわてて引き止めた。よしは、畳に手をついて、

「先生、ただいまの一言のお話で、私のようなものには充分でございます。私は頭も悪うございますし、実行もにぶいものでございますから、たくさんお話を伺っても覚えていいることができません。ただいまのお言葉、朝起き、正直、働き、を三月なり半年なり実行させて頂いて、充分実行ができ、あとあとも続けられるということが分かりましたら、また、教えを頂きに参ります」

と答えた。欲と一いいわれれば、欲を去り、高慢と一言きけば、高慢をとる。それがよしであった。一言の教理も、真に神の言葉と受け止め、押し載いて、よしは、全身全霊をもって、これに忘えたのである。

「大いなる慈母」(高橋定嗣 著)

真理をわかったつもりで、おこがましくまとめようとしていた私の姿勢と真逆である。



中川よし先生

◆ 簡単に掴めたらわけがない

同じ文脈で、自分はできていないのに、毎回人に伝えていたことがある。それは、修養科を了える方との面談のときである。いつも決まって、

「行く前と、行った後で何が変わりましたか？」

という質問をする。その返答は人それぞれ異なる。ただ、それに対して私が返す言葉はいつも同じで、

「これから地元、つまり元の環境に戻るわけですが、その良い変化をできるだけ長く手放さないようにしていただきたい」

という願いだ。

おちばでの3ヶ月の修養期間を経て、本当に持って帰られるものはそんなに多くはない。神様から教えていただいたものを、本当の意味で自分の身に修めていくことは1〜2日で簡単にできることではないからだ。

私たちは「これさえあれば」「これさえやっておけば」という言葉に弱いものだ。しかし、これだけ変化が激しく不確実な時代の中で、確かなものなんて一つもないと言ってもいいぐらいである。

信仰という大きな問いに向き合う営みにおいて、必要なのは知識や技能を得る、積み重ねるといったプラスのベクトルだけではない。立ち止まる、手放すといったマイナスのベクトルこそ大切になってくるだろう。凝り固まった「我」や、こうあるべきという自分を縛り付けているある種の「呪い」ともいえるものは簡単にほぐることができないからだ。



人生・運命が変わる修養科

◆ 真つさらに、先を永く。

前置きが長くなり本題に入る前に、私の反省文だけで紙幅が埋まってしまった。だけど、これくらいいいのかもしれない。

「かしもの・かりものの理」一つとっても、これまで数々の偉大な先人がこのテーマを深く掘り下げ、体現されてきた。現時点で私がいくら思考をこねくり回しても、お道の先輩方の教話や書き物の二番煎じ、ただの焼き直しにすぎないことは明白である。

当初はこのテーマを1、2回のコラムで考えをまとめようとしていた。しかし繰り返し返しになるが、あえてできるだけスピードを遅らせてみようと思ふ。

具体的には、まさに今私が抱える疑問や葛藤、現代の世情や社会課題を織り交ぜながら、このテーマに向き合いたいと思う。そして、中川よし先生のように、自分自身があらためて真つさらな気持ちで身に行い、身に修めていく中での気づきや変化をもとに、悟りを綴りたい。はつきりいつて自信はないが、実験的かつ挑戦的な試みである。

この続きを書くのがいつになるのか、またいつ完結するのかは現時点で全く予想できない。つまり赤裸々にいうと、それだけ私はまだまだ信仰的に未熟である。

教祖のお言葉に、

「先を短こう思うたら、急がんらん。

けれども、先を永く思えば、急ぐ事要らん。」

「早い早いにならん。遅いが遅いにならん。」

(教祖伝逸話篇 一三三、先を永く)

とお示しくださるように、皆様には遅々とした私の歩調に合わせてもらいつつ、できれば共に我が身に置き換えながら、先永くお付き合いいただきたい。



立教一八八八年四月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

【神殿講話】

(4月) 旭 和世先生(川之江部属 御空分教会長夫人)

【おかえり講話並びにおさづけの理拝戴者講話】

(4月) 坂本信子

【教会長神殿当番】

(4月) 地ノ島・田久生

(5月) 北大津・繁山

【詰所教養掛】

(4月) 為田 紀久男

(5月) 田村 省悟

(5月補佐) 坂井博文 女性 坂本喜子

【詰所事務当番】

(4月) 近藤太一(4月17日) 星野善胤(4月25日)

(5月) 佐藤孝彦

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん

4月16日～30日(紋宝) 10月1日～15日(本山)

○婦人会詰所ひのきしん

4月17日～19日(本山系1名 別府1名)

4月25日～26日(大教会2名)

【五季づとめ】

四月は五季づとめの月でございますので、左記の通り各上級を通してお納め下さいますようお願い申し上げます。

一、五季づとめ 三〇〇〇円

一、特別費(かなめ会費) 二〇〇〇円

合計 五〇〇〇円

【婦人会・少年会・青年会費納入のお願い】

令和7年度の各会費の納入を、左記の通り
お願い致します。

- ・婦人会 一名称 六〇〇〇円
- ・少年会 一名称 六〇〇〇円
- ・青年会 一名称 六〇〇〇円

納入については、各会責任者もしくは会計
担当者にお納め頂き、必ず領収証を受け取っ
て下さい。やむを得ず詰所事務所にお預けに
なる場合は、詰所にて預かり証しか出せませ
んのでご留意下さい。

【立教188年

「たねな会おぢば帰り団参」について】

○6月29日(日)

- 10:30 本部神殿にておつとめ
- 11:30 東講堂にておかえり講話
弦楽演奏

12:30 昼食弁当配布

○帰参御供(29日の昼食弁当含む)

- 大人・千円(中学生以上)
- 小人・五百円(小学生以下)

※帰参報告書を同封(教会のみ)しておりま
す。受け入の準備の都合上、概数で結構です
ので、4月20日迄に大教会へ提出して下さい。

【婦人会】

◇天理教婦人会第107回総会

「総ての会員がおぢばへ 人を誘っておぢばへ」

●式典

日時 4月19日(土) 午前9時半

場所 本部中庭 南・東礼拝場 西境内地

おつとめ 式典に引き続き

記念行事 支部の集い

※総会後、詰所にて当日いただいたお言葉の
ふりかえりをいたします。

たくさんの方にお集まりいただきますよう、
よろしくお願いいたします。

※19日の昼食はお弁当になります。

お弁当、お茶付き五百円です。

ご注文される方は、4月14日までに必ず詰所
までお申し込みください。

◇「御赤衣料」について

繁藤支部婦人会では、毎年教祖ご誕生祭に
「御赤衣料」として御供をさせていただいて
います。ご賛同いただける方は、直属教会を
通して宮田委員までお届けいただきますよう
よろしくお願いいたします。

◇別席強調月間

3月1日(土)～4月30日(水)

◇繁藤支部「ひながた勉強会」

日時 5月25日(日) 13:30～15:30

場所 繁藤詰所4F大広間

たくさんの方のご参加お待ちしております。

【学生会】

今年の『春の

学生おぢばがえ

り』通称『春学』

は、繁藤につな

がる学生さんは

10名参加してく

れました。

式典当日は、

16年ぶりの雨模

様との事で急遽

殿内開催となり

ましたが、真柱

様のメッセージ

を頂き、学生達なりに年祭活動最後の年、学生
として出来る事、又学生だから出来る事をこれ
からも模索して、心新たな気持ちで進んでいこ
うと決意してくれました。春学参加にあたり、
叶わなかった方々も含めそれぞれの教会よりお
声かけ丹精下さり、誠にありがとうございます。

【修養科修了生(1003期)】



下村 博
城田



【少年会】 ○おつとめまなび総会

3月30日『第42回繁藤団おつとめまなび総会』を開催させて頂きました。

少年会員64名・育成会員95名の参加者のもと、各隊で一生懸命に練習してきたおつとめを、真剣につとめてくれました。式典では、少年会長様からの「ご告示」を育成会長様が代読して下さい、続いて子供達にわかりやすくお話を下さいました。新入学の子供達一人ひとりに記念品を渡して下さいました。その後食堂周辺で模擬店・ゲーム・抽選会・室内オリンピックで楽しい時間を過ごさせて頂きました。夏の子どもおぢばがえり、おぢばで会えるよう声がけをして、無事に勤め終えさせて頂きました。

育成会員の皆様には、お世話取りをいただき誠にありがとうございました。うございました。

今後少年会の活動の上に、変わらぬお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

○子どもおぢばがえり申込み方法について

3月26日の団長会でインターネット申込みに必要な「申込キー」が、全教会配布されました。月報に同封して頂きますので、まず責任者登録をして下さい（6月20日10:00より登録可能になります）。7月1日10:00より、子どもおぢばがえりオンラインサイトの申込フォームより申込みが出来ます。申込みが出来るのは、帰参予定人数・カレー食数になります。申し込みが出来るのは、一日の上限がありますので、上限に達した場合は申込みが出来なくなります。準備の都合上、7月20日までに一度申込みをして下さい。申込み方法の手引きも同封（教会のみ）しますが、不明な点は団長までお問い合わせ下さい。



第42回おつとめまなび総会



【主教百八十八年 三月 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には、にんげんのわが子をもうもをなぢ事こわきあふなきみちをあんぢると、成人の鈍い私共の行く末をお案じ下され、或る時は厳しく、或る時は懇ろに、身上や事情に印を見せてお仕込み下さり、お導き下さいます深い親心の程、誠に有難く勿体ない限りで御座います。私共は各々が目の当たりにする事柄、節の中に親の御心を悟り、御教えに心を正し、一層誠を振り興して、たすけ一条の御用に励ませて頂いておりますが、その中にも梅の花ほころぶ今日の吉き日は、御教えの元一日の理を受けて、当教会に御許し頂いております月々の御祭日に当たりますので、只今からお後に預かるおつとめ奉仕のようばく一同、一手一つに心を合わせ座りづとめてをどり勤め、三月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には今日を樂しみに寄り集った道の子供達が、一心におうたを唱和し、日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げ、尚一層の成人をお誓いさせて頂きます。

とりわけて申し上げます。明日の春季霊祭に併せ、坂本藤恵繁藤大教会五代会長の十年祭を執り行わせて頂きます。三十年余りの長きに渡り、繁藤の名称の理に繋がるようばくの志として先頭に立ち、先々の教会まで真心の限りの丹誠を尽くされた御遺徳を讃えて、御厚恩に御礼申し上げます。

更には又、今月三十日に行われまます少年会繁藤団おつとめまなび総会においては、幼少年育成の機会を活かし、繁藤の仲間同士の結びつきを築き、おつとめの大切さ、信仰の喜びを子供達に伝えさせて頂きたいと存じます。

私共教会長をはじめ、ようばく一同は、刻々と迫りつゝあります教祖百四十年祭に對して、たゞ一筋にたすけの道に邁進し、節より芽の吹く御守護を頂くべく、それぞれ持場立場で懸命の努力をさせて頂く所存で御座います。各教会、各家庭において、親から子、子から孫へとお道の信仰が切れ目なく繋いでいきますようお導きの程を、また互い立て合ひ助け合ひの陽気づくめに睦み楽しむ世の状に、一日も早く立て替わりますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会立教百八十八年三月 祭典役割》

祭主	大教会長		立花真一郎	
	田村辰久		佐々木 恵	
指図方	為田基紀		前田 豊	
扨者	佐藤成彦		田村省悟	
贊者	田村聡佐		村上由高	
贊者	空閑慶吾		空閑慶吾	
男	座りづとめ	てをどり前半		てをどり後半
大教会長	安部道郎	田村省悟		
前大教会長	田村聡佐	空閑慶吾		
田村辰久	伊藤正福	黒河明大		
大教会長夫人	宮田まゆみ	佐藤明子		
前会長夫人	坂本喜子	黒石美佐		
黒石伸子	為田賢子	宮田みなみ		
田村久徳	佐藤成彦	立花真一郎		
空閑一将	前田 豊	坂井博文		
川田節夫	立花孝一	村上 修		
為田基紀	田村省悟	立花孝一		
為田紀久男	佐藤節幸	竹下隆廣		
空閑一教	土居道久	村上由高		
宮田孝道	宇山基紀	田村庫治		
佐藤栄治	石川信雄	宮田教一		
坂本久徳	佐々木 恵	藤田 誠		
村上美栄子	田村睦美	村上 綾		
佐藤順子	空閑 都	阪本喜代子		
空閑さとの	佐藤文代	田村育与		
前大教会長				
地方	川田節夫	立花孝一	村上 修	
笛	為田基紀	田村省悟	立花孝一	
チャンポン	為田紀久男	佐藤節幸	竹下隆廣	
拍子木	空閑一教	土居道久	村上由高	
太鼓	宮田孝道	宇山基紀	田村庫治	
すりがね	佐藤栄治	石川信雄	宮田教一	
小鼓	坂本久徳	佐々木 恵	藤田 誠	
琴	村上美栄子	田村睦美	村上 綾	
三味線	佐藤順子	空閑 都	阪本喜代子	
胡弓	空閑さとの	佐藤文代	田村育与	
神殿講話	前大教会長			



たちばな、
おちばへ。



たちばな会おちば帰り団参

2025 **6.29** sun

●おつとめ／当日10時30分より、七大教会が本部神殿に集まり、拍子木を入れたの「おつとめ」をつとめさせていただきます。

団参の詳しい内容はホームページ・SNSをご確認ください

<https://tachibanakai.net>



情報は随時ホームページや SNS などで発信予定です。まずはこちらの公式 LINE をぜひご登録ください。



たちばな会おちば帰り団参実行委員会